

Shono Street

庄内農業高等学校 図書館だより

R4 No.8

11

2022.11.25

楽しかった庄農祭も終わり、日ごとに寒さが増してきました。
テスト勉強に集中したいときには、ぜひ図書館を使ってくださいね。



New Books



☆は、リクエスト本。ほしい本があれば図書館まで

『学び合い、発信する技術』



これからの社会ではいかにして情報を集め、共有し、発信していくかが問われる。この本はアカデミックスキルを身につけるための入門書。

林直亨
岩波書店

『目でみる日本史』



この本のコンセプトは、「歴史上の人物が見た風景を見に行くこと」。歴史は、教科書の中にだけあるものではなく実際に見て体験できる。

岡部敬史
東京書籍

『平安貴族サバイバル』



優雅なイメージとは裏腹に、弱肉強食の世界に翻弄されながらもアグレッシブに生きた平安貴族たち。著者は現代日本社会に似ていると…。

木村朝子
笠間書院

☆『ザリガニの鳴くところ』



ノースカロライナ州の湿地で男の死体が発見された。人々は湿地の少女に疑いの目を向ける。物語は予想を超える結末へ…。

ディーリア・オーエンス
早川書房

☆『凧の国』



おじいちゃんから孫へ残していきたい伝統とは。受け継がれてきた日本のすばらしさ、世界に深く刻まれた誇り高き精神が書かれている。

前野徹
青春出版社

『宙ごはん』



どん底にいた宙と、パンケーキ。佐伯から教わったレシピをノートに書きとめ続けた。どこまでも温かく、やさしいやさしい希望の物語。

町田その子
小学館

☆『白の闇』



突然ある男が車の運転中に視界が真っ白になる病を発症し、失明が社会に伝染する。『ペスト』を超えた、唯一無二の傑作。

ジョゼ・サラマーゴ
河出書房新社

『くるまの娘』



車で祖母の葬儀に向かう、17歳のかんこたち一家。思い出の景色や車中泊の密なる空気が、家族のままならなさの根源を引きずりだして…。

宇佐美りん
河出書房新社

『母性』

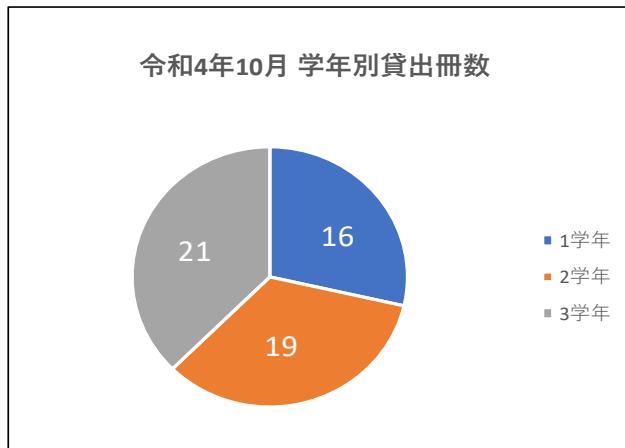
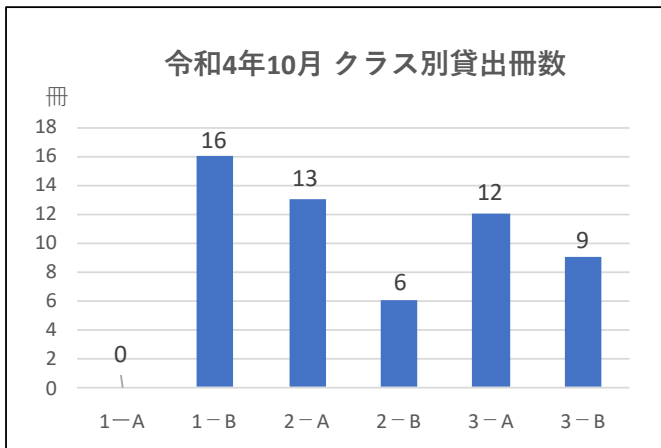


事故か、自殺か、殺人か。母の手記と娘の回想が交錯し、浮かび上がる事件の真相とは？母と娘の一方通行の愛を描く。

湊かなえ
新潮社

10月の図書貸出状況

10月の図書貸出総数は全校で77冊でした。内訳は、生徒への貸出数が56冊、教職員への貸出数が21冊です。



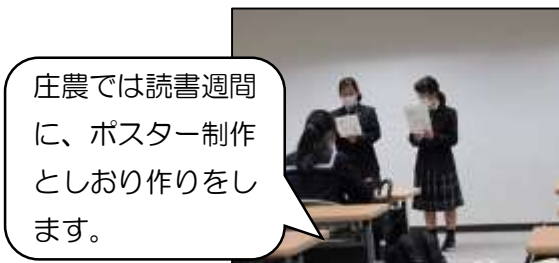
図書視聴覚委員会 活動報告

◎ 田川地区図書委員研修会

11月2日（水）マリカ東館第1研修室にて、田川地区図書委員研修会が開催され、本校代表として2名が参加しました。前半は各校の読書週間の取り組みについての発表があり、後半は鶴岡東高校の生徒の説明後にしおり作りをしました。

【読書週間の発表より】

- ・発表後、鶴岡中央高校への質問が多くありました。それは、一人一人がchromebookを使用するようになって、webを活用した本の紹介に対してのものでした。Googleサイトを利用したこのような取り組みを参考にしたいという感想も多数挙げられました。



◎ 庄農祭

庄農祭2日目の11月12日（土）、委員会企画として「東田川文化記念館の見学記」と「区内のミュージアム案内」の展示をしました。保護者の方々も足を止めて観てくださり、生徒手製の折り紙をおみやげにと持ち帰られる姿がありました。ご来場いただいた皆様、どうもありがとうございました。

